

## 平成29年度アドバイザー派遣事業実施レポート

研究テーマ 「思いを伝え合い、共によりよく生きる子どもの育成」  
～「感じ、考え、かかわり、行動する」子ども～

クラス会議研究会

アドバイザー：上越教育大学教職大学院 赤坂真二 教授

### 1 はじめに

本研究会は同じ研究の方向を目指す鳥取市立富桑小学校・鳥取市立浜坂小学校・湯梨浜町立羽合小学校が連携して、学級経営を充実するための中核に学級活動を据え、児童のよりよい人間関係を構築するための研究を進めることをねらいとしている。学級活動において、よりよい学級生活をめざした話し合い活動を充実させることで仲間としてのつながりができ、学級への所属感が深まると考える。その意識が、お互いを高め合う学級集団を育てると考え、「児童の自主的・自発的な活動を重視した授業」の工夫・改善を行い、教師の指導力向上を図るために上記の研究テーマを設定した。上越教育大学教職大学院、赤坂真二教授は、児童のやる気と自信を高める学級づくりについて実証的な研究を進めておられる。その中でもクラス会議は、学級の中に安心して過ごせる居場所づくりや自ら問題を見つけ解決し、よりよい人間関係を築こうとする力を育成する教育活動である。クラス会議を核に、学級づくりと授業づくりの理論と方法を学び、指導力の向上をめざしたいと考え、3校が連携し、情報を交換しながら研究を進めていった。

### 2 実施期日

平成29年 11月6日（火） 9：30～16：40 湯梨浜町立羽合小学校

- ① 授業参観
- ② 公開授業（3年 学級活動）
- ③ 公開授業（5年 算数）
- ④ 授業研究会
- ⑤ 講義「主体的対話的で深い学びをめざす学級集団づくり」

平成29年 11月7日（水） 9：25～13：30 鳥取市立浜坂小学校

- ① 公開授業（1年 学級活動）
- ② 公開授業（2年 学級活動）
- ③ 公開授業（4年 学級活動）
- ④ 指導助言

平成29年 11月7日（水） 14：05～16：45 鳥取市立富桑小学校

- ① 算数科・学級活動全学級公開授業
- ② 学級経営についての質疑（指導助言）
- ③ 講義・演習「主体的対話的で深い学びをめざす学級集団づくり」

### 3 各校における赤坂先生による指導の内容と研修のまとめ

#### ① 湯梨浜町立羽合小学校

クラス会議と算数の提案授業をもとにマトリクス法によるグループ討議によって成果と課題を整理し、その課題と関連づけて赤坂先生に指導助言と講演をしていただき、研修を深めた。本校職員によるグループ協議では、成果として、あたたかい雰囲気の中でグループの話合いや全体の話をも自分たちで進めていく力が低学年から積みあがっていることが挙げられた。課題としては、相手意識を持って自分の考えをまとめ工夫して説明する、一生懸命表現するという力をさらに積み上げていくことが挙げられた。「学習者をどれだけ主体者にできるか」にこだわり、ともに解決することに価値付けを強めていく指導や支援を積み上げていかななくてはならないことを強く感じた。私たちの使命が、「児童をよき問題解決者にすること」ということを明確に指導していただき、どれだけ助け合って学んでいるか、日々の授業を点検していこうと確認できた。また、「どの意見も検討対象にする、誰もが自分の意見を表現できる」という基盤づくりは、クラス会議だけでなく算数など教科学習と学級経営をつないでいくという確認ができた。

#### ② 鳥取市立浜坂小学校

クラス会議という授業実践の場だけでなく、学校生活のさまざまな場面で①指導②評価③勇気づけを行っていくことが大切であるということ学んだ。児童の活動や児童の姿を意味付け、価値付け、勇気づけていくことで、児童が変容していくことが分かった。アクティブラーニングの目的は、主体的な問題解決者を育てることである。そのために教師の出番は、最初と最後だけである。児童に任せる場面をもっと作っていくことを教えていただいた。教師の働きかけの言葉やタイミング、教室空間の中でいかに教師の気配を消すか、そのための場の設定の工夫など、多くのことを具体的に授業者一人ひとりに指導していただいた。本校の課題は、議題やめあての設定である。「〇年〇組が、さらによいクラスになるためには、次の目標はどのようにすればよいか考えよう。」など議題を行動定義型にすることを指導していただいた。今後、検討したい。「折り合う」前提は、「受容」であるという言葉も心に残った。あたたかい学級経営をめざしたい。

#### ③ 鳥取市立富桑小学校

全学級を授業公開し、日常の学級の様子を講師の先生に見ていただいた。その後、学級経営についての質疑の時間をとり、担任からの質問に詳しく答えていただいたことで、児童へのかかわり方や学級集団へのアプローチの仕方を具体的にイメージすることができた。また発達段階と自尊感情の関係について、学校心理士としての専門的なお話を聞くことができ、参加者の理解も深まった。講義では、「主体的・対話的で深い学びを実現する学級集団」と題し、学び合う集団から学び続ける集団へとレベルアップするための構成要素についてご示唆いただいた。クラス会議を実践することでつく力は、新学習指導要領の資質・能力と重なる部分が多い。主体的に学び合う集団をつくるために、今後もクラス会議に全校で取り組み、研究を進めていきたい。

#### 4 赤坂先生による学級経営についての質疑応答及び講義の内容

##### ① 学級経営についての質疑応答

**Q 登校しぶりの傾向のある児童についてどのように対応すべきか**

**A 自尊感情を高める**

○発達段階と自尊感情

思春期前期になると、自分のことが他者目線で見られるようになってくる。認知能力が高まり、いろいろなものが見えるようになってくる。このため、18歳くらいまで、自尊感情は下がっていく。長期間の休みの前後から登校しぶりが見られた場合は、自分をふり返る時間ができてしまったことによるものであることもある。自尊感情が低くなると、他者よりも優位に立ちたくなる。家庭的背景にも配慮する必要がある。自尊感情がコップに満たされている状態なら、相手へもやさしい言葉をかけられる。

○基本的自尊感情と社会的自尊感情

社会的自尊感情を高めるには、教師のあたたかい声かけが必要である。認め合いの機会をつくる。そのためには、帰りの会、クラス会議などでシステムをつくるとよい。全員の強みを見つけ、児童同士でも見つけさせることである。その子のできること、得意なことをカリキュラムに入れていく。

**Q 授業中落ち着かない児童への対応**

**A 適切な行動を強化する**

○適切な行動をしている児童に注目するのがベストである。

不適切な行動をしている児童に長くかかわらないようにする。むしろ、適切な行動をしているときに注目する。注意を繰り返してもいいことはない。むしろ、言うから悪くなることの方が多い。大きな声で指導していてもうまくいかないことが多い。上の学年になると、指導が入らなくなる。

##### ② 講義の内容

講義では、「主体的・対話的で深い学びを実現する学級集団」と題し、学び合う集団から学び続ける集団へとレベルアップするための構成要素についてお話をしていただいた。ペア学習について、ペア学習で満足度が高いのは、会話量が1：1に近づくほど、満足度が高くなる。同じくらい話をするのがペア学習成立の条件である。発言の対等性を保障することが大切である。クラス会議も輪番での発言、みんなが順番に話すということを大切にしたい。学びとは、本来共同の中で起こるものである。仲間同士、学び合う集団であるか、今一度確認したい。児童が過ごしやすい学校になっているか、学校にいて賢くなっている実感はあるか検証したい。学び続ける集団にするために、集団改善の手続きが必要である。

#### 5 おわりに

昨年度に引き続き、赤坂先生の指導助言を受けることで、3校がこれまで取り組んできた研究の方向性や成果、課題について確認することができた。3校が実践の方法や指導助言の内容を情報交換することで、各校で研究テーマに迫る取組をすることができた。今後も、研究テーマの実現に向けて、各校が互いに交流しながら取り組んでいきたい。